



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イエメン：サーレ八大統領のインタビュー

(3月27日付ハイヤート紙)

1. テロ対策・治安情勢

(テロに対し何らかの懸念を抱いているか、なぜテロ分子はイエメンを選んでいるか、との質問に対し) テロリズムは全世界的な現象である。テロに対して懸念はない。ただテロ分子がイエメンで活動するにあたっては、貧困、地政上の条件が利しているのであろう。

2. サウジアラビアとの関係

政治分野におけるサウジとの関係は相互信頼に基づいており、最良である。サウジは財政的・経済的支援を行ってくれている。洪水被害に対して復興事業に対しても支援を行ってくれている。

3. イランによるモロッコ及びイエメン、特にホサダ州のホーシー派支援、またヒズボラによる支援があるのではないかについて

(1) アラブ諸国の結束が欠如しているためにイランが内政干渉を行うのだ。ただイランがシーア派勢力の拡大を成功させているといった見解については懐疑的である。(リビアがホーシー派の支援を行っているのでは、については明確な回答をせず) ヒズボラが支援をおこなっているとは思っていない。

(2) ホーシー派に関しては、政府は平和を重んじて軍事行動の停止を決定したが、ホーシー派が軍事行動を継続させている。彼らは、1962年のイエメンの共和国革命、イエメンの統一、現行の政治体制を嫌い、かつ時代遅れの寡頭体制とマルクス主義体制に忠節を尽くしている連中から支援を得ている。

4. イエメン内政

(1) 与党 GPC と野党連合 JMP との間で選挙実施の延期に関する合意を行ったのは、憲法で定められた制度上において政治的空白が生まれるのを避けるためである。また次の大統領選には出馬しないと考えている。また誰かに強く擁立を要請されたとしても受け入れないだろう。自分は高齢だし、他に適任者がいる。

(2) (イエメンの治安情勢がパキスタンのそれに近づいているのではとの質問に対し) 全く異なる。アフガニスタンの現状は、介入を行った米国に責任がある。我々イエメンはあらゆる内政干渉を拒絶している。イエメンは古来より民主的で、誰かから教わることなく、それを学び取ってきた。